

平成18年度岐阜県立関養護学校 第4回学校美術館 実績報告書

平成19年3月

<p>1 活動の概要</p>	<p>組織 県立学校長自主プラン推進事業「学校を美術館にしよう」 担当 学校美術館運営委員会 学校長、高等部主事 美術科 協力 関市社会福祉協議会、関養護学校PTA 会期 1学期 4/10～7/20 2学期 8/28～12/22 3学期 1/9～3/23 鑑賞者 本校児童生徒125名、保護者家族200名、職員120名、 交流学校生徒学生（藍川中、関高、関商工高、中部学院大学、岐阜女子大学）400名 学校関係者（福祉関係者、県教委、諸会議出席者、各種研修出席者等）200名 一般（出品者関係、美術愛好家）50名 いずれも概数、総計約1100名 関連事業 記録誌発行、開会行事（記念演奏会、作品鑑賞会）、ワークショップ（共同制作、記念講演会、能力開花支援事業併用）</p>
<p>2 活動の実績</p>	<p>1学期 大垣工業高等学校産業デザイン科卒業制作作品、職員作品紹介展 約35点 2学期 ファインアート、ユニバーサルデザイン8組展示 約70点 開会行事 中部学院大学吹奏楽部記念演奏、作品鑑賞会 岐阜女子大学学生による本校生徒をモデルとしたウェディングドレスのデザインと実作 ワークショップ 講師日比野克彦、佐部利典彦 大提灯の制作、イベント「こよみのよぶね」展示使用 3学期 本校卒業生山田真己水彩画、小澤義久立体造形作品、多治見工業高等学校卒業制作展作品 約90点 通年で校舎内外に、造形作家および職員より美術作品を借用して展示。児童生徒、保護者、一般に公開して地域の美術館的性格を担った。鑑賞教育に活用するとともに開かれた学校として、開会行事、ワークショップや学校祭などの行事で外部との交流を図ることができた。</p>
<p>3 広報</p>	<p>紹介記録誌「第4回学校美術館」1000部発行 配布先 児童生徒保護者、諸会議資料、進路先資料、出品者、職員、一般鑑賞者 新聞報道 岐阜新聞9/5「あふれる芸術に生徒らウキウキ」、中日新聞9/5「学校美術館を公開」 その他 本校ホームページ、日比野克彦氏ホームページ</p>
<p>4 生徒の感想</p>	<p>高等部 「自分の体にあった素敵なウェディングドレスを着くってもらいうれしかった。」「スライド写真は花などすごくきれいで、ゆっくり説明してもらいわかりやすかった。」 中学部 「自分たちで作った提灯が流れるのを見に『こよみのよぶね』をぜひ、見に行きたい。」「山田真己さんの絵を見ていたら、僕も手がうまく動かないけれど水彩画を描きたいと思った。」</p>
<p>5 担当教職員の意見</p>	<p>計画的進行で年間を通して作品展示を効果的に実施することができた。近隣地域の方々や学校関係からのご協力を得て、身近な交流ができ、本校の学校施設や教育活動に関心と理解をもていただくことができた。ワークショップでは児童生徒が参加して「こよみのよぶね」のイベントに関わったり、教師集団が協力して下準備することで児童生徒と職員の一体感が生まれて意義があった。いずれも参加者の関心を高め、学校美術館を形成することができた。</p>



体育館での開会行事



本館3階での鑑賞



車いすでも着用できるドレス



ワークショップ大提灯完成後の集合写真

「学校美術館開会行事」

2学期展示の作家を紹介した後、中部学院大学吹奏楽部による記念演奏会を実施。開会行事の後、作品鑑賞会を行い、作家から作品解説を聞いて児童生徒と交流を深めることができた。

「鑑賞会風景」

近隣の教室の方々によるパッチワークキルトの作品群は、延べ30名におよぶ月替わりの展示で、校舎をカラフルに飾っていただいた。

「ユニバーサルデザイン展示」

彫刻・絵画・写真等の展示の他、ユニバーサルデザインをテーマに岐阜女子大学生活科学科のファッションの展示では、本校女生徒2人のデザインしたウェディングドレスを実作してもらうことができた。本人のあこがれを実現できて学校祭の中で披露することができた。

「日比野克彦講師ワークショップ」

学校美術館の開催中に実施するワークショップは、能力開花支援事業を併用して日比野克彦氏を講師にイベント「こよみのよぶね」の大提灯の制作を行った。保護者の協力も得て、児童生徒は指定色の和紙を貼り重ね、季節のイメージを表し、カウントダウンで点灯して完成を祝った。講演を聴いて氏の活動の意味を知ることができた。冬至の夜には長良川にて実際に使用された。

3学期には多治見工業高等学校卒業制作展や卒業生、山田真己さんの作品展示、小澤義久氏の立体造形の野外展示を行った。



「浄化装置」小澤義久